



株式会社エフテック 第56期 報告書
平成22年4月1日～平成23年3月31日

証券コード (7212)



「守りから攻めへ」を基本方針に、 より強固な経営体質への変革を目指します。

経営環境の好転を追い風に、
増収増益を達成いたしました。

業績のお話に入ります前に、このたびの東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

第56期においては、3月11日に発生した東日本大震災による影響はあるものの、当

社が位置する自動車業界はリーマンショックでの大幅な落ち込みから立ち直り、北米市場においては回復基調で推移し、アジア市場では当初の予想を上回る成長を示しました。こうした経営環境の好転を背景に、当社グループは各地域での販売強化に努めるとともに、原価低減や合理化等を進め、連結での売上高は1377億6百万円（前期比12.8%増）、営業利益は78億32百万円（前期比46.0%増）と、増収増益を達成することができました。

将来の飛躍に備え、しっかりとした
足場づくりに取り組みました。

第56期において当社グループは、生産の変動に強い体質づくりを目指す製造体質改革活動を展開し、各拠点で生産の効率化を推進してまいりました。また、効率的な経営を推進する観点から、良いものをいち早く全拠点に供給する体制を構築すべく、当社グループのグローバルネットワークを活用した購買部門の充実を図ってまいりました。こうした取り組みによって、足場を固め、将来の飛躍に向けた基礎を確立

代表取締役社長

木村 嗣夫

基本精神

Respecting People
Challenging Spirit
Making Profit

することができたのではないかと評価しています。

また、東日本大震災の影響により、当社グループのみならず、部品メーカーのサプライチェーンが大きく変わろうとしています。こうした変化を前に、ネガティブな面ばかりに目を奪われるのではなく、経営体質を変革するチャンスとポジティブに捉え、変化を先取りした行動をしてみたいです。

ニーズを先取りする競争力の強化に
取り組みます。

これまで当社グループは、日本や欧米のメーカーを競争相手として考えてきました。しかし、これからの時代では、各地域の部品メーカーとの競争になってくると考えています。そうしたときに問題となってくるのが、開発力であり、技術力であり、コスト競争力です。中でもコスト競争力は大きな比重を占めるようになります。したがって、

当社グループとしても、常にコストを意識した中で他社の先を行く体制をつくっていかねばなりません。そのため、中長期的視点に立って市場や技術の動向をしっかりと把握し、お客様が当社グループに求めるものを先取りして提供し、他社の追隨を許さない部品メーカーとして成長していく必要があります。

具体的には、開発面・技術面では従来の開発に加え、音・振動評価技術を確立し、従来のサブフレーム単体開発から周辺部品を含めた共同開発に取り組み、複合機能部品開発を進めてまいります。当社グループは、市場やお客様のニーズを的確に捉えつつ、製品として具現化することを通じて製品領域の拡大に取り組んでいきたいと考えています。

第57期において、「守りから攻めへ」と転じます。

「圧倒的競争力を持つ足廻り複合機能部品メーカーになる」ことを方針とした第11次中期経営計画の初年度にあたる第57期において、当社グループはこれまでの「守り」の体制から「攻め」の体制へと変えていくことを明確にするため、「守りから攻めへ」を経営スローガンに掲げ、そのための

体質づくりを行うことといたしました。「攻める」ためには圧倒的な競争力が必要不可欠となるわけで、技術力、開発力に重点を置きつつ、これらを使いこなせるだけの営業力、この三つを大きく育てていきたいと考えています。こうした取り組みを通じて、将来に向けた当社グループの方向性を見いだすことが第57期の課題となります。

このため、「選択と集中」といった観点から、メリハリをつけた投資を行い、当社グループの経営体質をより強いものに変えていきたいと考えています。また、前期に引き続き、生産部門のスリム化を進め、より効率的な海外展開を目指します。特に、今まで培った国内ノウハウを結集してグローバル・メンテナンス体制を構築し、それを海外展開し、設備の長用化、効率化を図ってまいります。また、中国に設立した商社を活用しグローバルな金型製造体制を構築しコスト競争力の強化をいたします。なお、新たに二輪事業への参入をはじめとする新市場の開拓等、販路拡大にも取り組んでまいります。



株主の皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

これまで当社グループは、業績に基づく利益還元を基本とし、財務体質の強化を図りながら、連結当期純利益に対する配当性向の目処を10%以上とすることを配当方針としてまいりました。当期の配当金につきましては東日本大震災の影響による今後の経営環境が不透明なことを勘案し、1株当たり中間配当金を13円、期末配当金を7円の年間20円とさせていただきます。株主の皆様には、東日本大震災の影響により特別損失が生じ、ご迷惑をおかけいたしました。これを契機に次のステップに飛躍する糧として活かすべく、当社グループ一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き、当社グループに対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災の影響と対策

平成23年3月11日、宮城県牡鹿半島沖を震源地とする東日本大震災は、東北、関東地方に大規模な被害をもたらしました。改めて被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

当社の被害状況ですが、久喜事業所（埼玉県）では建屋に若干のひび割れが生じ、耐震強度の検証、機械精度の確認等が必要な状況となりましたが、生産への影響は生じませんでした。また、亀山事業所（三重県）については異常は認められず、生産に支障を来すことはありませんでした。一方、芳賀テクニカルセンター（栃木県）では、研究所建屋が損壊したほか、クレーン等が破損する被害が生じました。

当社では、地震発生直後、社長を本部長とする対策本部を緊急に設置し、社内外の状況把握と正確な情報伝達に努めるとともに、迅速に対応策を決定し、直ちに実施いたしました。最も被害の大きかった芳賀テクニカルセンターについては仮設事務所を3月末に設置し、4月1日より稼働を開始いたしました。しかし、建物については骨格のみを残し全面修理が必要なことから、完全復旧は平成23年12月を予定しております。

4月以降の状況については、国内自動車メーカーの減産の影響を受け稼働率は通常の50%程度にとどまり、その対応として要員や残業、製造経費や販売管理費の削減などの諸施策を実施しております。また、電力使用削減の取り組みとして、ピーク時の電力消費を抑制するための勤務形態の変更や空調の徹底管理、照明のLED化、集中生産の実施等を行い、電力使用量の15%削減を着実に実施してまいります。

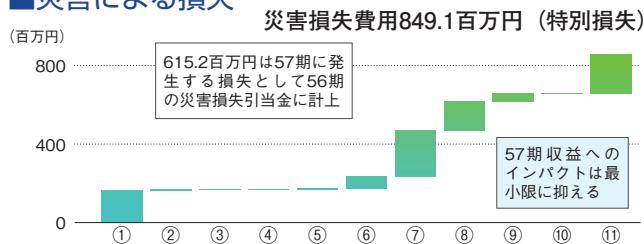
東日本大震災の被害状況

1. 久喜事業所	・ 建屋に若干のひび割れ ・ 耐震強度の検証が緊急に必要 ・ 機械精度確認、等	生産に支障なし						
2. 亀山事業所	異常なし							
3. 芳賀 テクニカル センター	<table border="1"> <tr> <td>・ 従業員</td> <td>軽傷者1名</td> </tr> <tr> <td>・ 建物</td> <td>研究所建屋が損壊</td> </tr> <tr> <td>・ 設備</td> <td>クレーン等破損</td> </tr> </table>	・ 従業員	軽傷者1名	・ 建物	研究所建屋が損壊	・ 設備	クレーン等破損	建物は骨格を残し 全面修理 仮設事務所の設置 ※3月末で設置済み、 4月1日より稼働
・ 従業員	軽傷者1名							
・ 建物	研究所建屋が損壊							
・ 設備	クレーン等破損							

対策本部設置



災害による損失



①	有形固定資産の廃却/減失損	162.2	⑦	損壊した資産の点検/撤去費用	237.5
②	棚卸資産の廃却/減失損	3.9	⑧	損壊資産の現状回復費用	145.5
③	損壊した資産の点検/撤去費用	1.0	⑨	仮設設置及び取り壊し費用	38.5
④	損壊資産の現状回復費用	2.5	⑩	暫定生産対応に伴う追加的費用	4.5
⑤	仮設設置及び取り壊し費用	5.2	⑪	得意先都合の操業停止期間中の固定費（人件費）	189.2
⑥	得意先都合の操業停止期間中の固定費（人件費）	59.1	57期分としての引当金合計		615.2
56期費用処理合計		233.9	合計		849.1百万円

第11次中期経営計画フレームワーク

第11次中期経営計画の方針

圧倒的競争力を持つ 足廻り複合機能部品メーカーになる

第11次中期経営計画の目標

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 Q : グローバル高位品質水準の達成 | 5 M : 次世代を担う人材創出 |
| 2 C : 高収益企業体質の実現 | 6 M : 財務体質の向上 |
| 3 D : 複合機能部品開発 | 7 M : 環境負荷低減の実践 |
| 4 D : 新分野・新商品開発企画 | 8 G : グローバル安全総括管理 |

当社グループは、第57期を起点とする第11次中期経営計画を策定し、「圧倒的競争力を持つ足廻り複合機能部品メーカーになる」ことを方針として掲げています。これまで当社グループは、SED（Sales＝販売、Engineering＝技術、Development＝開発）を競争力の重要な要素として位置づけてきました。第11次中期経営計画では、圧倒的競争力を確保するため、これにR（Research＝調査）を加え、よりグローバルな視点から市場動向や技術動向を先取りし、次代を担う競争力の糧とすることを明確にいたしました。

そのうえで、当社グループが保有する開発力や技術力をもっと深掘りするための「深化」を行い、新たな製品を生み出すための「進化」を遂げなければなりません。この「深化」と「進化」の両輪を効率的に回転させることで当社のコア技術に磨きをかけ、圧倒的競争力を確保していきたいと考えていま

す。中でも、グローバル市場において生産性の向上を図るとともに、最適な保守体制を構築するため、これまで以上に各地域での現場力の強化、保全コストの削減、技術者の養成に取り組み、グローバル・メンテナンスサービス・ネットワークの強化に努めてまいります。

また、これまではお客様のニーズをいかにしてクリアするかに重点が置かれていましたが、第11次中期経営計画では、さらに歩を進め、これまで当社グループが開発してきた技術を活用し新たな製品に結びつけていく取り組み、独自の技術開発を目指す取り組みをより一層推進することで、提案力を持った部品メーカーとして勝ち残ることを目標にしています。将来的には、自立開発型足廻り複合機能部品メーカーへと進化を遂げるべく、国際競争力の強化に向けた体力づくりを推進してまいります。

本田技研工業株式会社様より、「グローバル品質賞」を受賞いたしました。

これまで当社グループは、グローバルな規模での高位品質水準の達成を目指す観点から、コア人材の海外派遣や海外拠点の自立化推進を積極的に取り組んでまいりました。その結果、第56期において本田技研工業株式会社様より、全世界での品質実績が高く評価され、取引先で唯

一、「グローバル品質賞」を受賞いたしました。当社グループといたしましては、今回の受賞を励みとして、当社グループの未来を築く価値の創造に向け、より一層、品質の維持、向上に努めてまいります。



世界24時間開発体制による、グローバルな規模でのR&D体制確立を目指します。

現在、当社グループでは、日本で発案し、解析やシミュレーション技術の発達した北米で製品に具現化する作業を行い、フィリピンで図面に落とし込み、製品化するという、拠点ごとの役割分担に基づいた24時間の開発体制づくりを進めています。こうした取り組みを進め、それぞれの拠点の特質を活かした、拠点発の「特産品」を生み出し、拠点自体の活性化を図るとともに、それぞれの拠点に根ざしたより良い製品をお客様に提供することで、グローバルな部品メーカーとしての役割を果たしていきたいと考えています。また、中国における技術力の進展を踏まえ、今後は中国も開発拠点として視野に入れつつ、地域仕様に見合った製品開発など、新市場の開拓に努めてまいります。



現在駐在対応

	芳賀T/C	北米R&D	フィリピンR&D	中国R&D
業界TOPクラス FtechグローバルR&D 最大活用	R&D コントロールタワー	技術特化	各R&Dから委託	新市場開拓
各R&D特技 全世界人材活用	グローバル機種 新構造技術 生産技術	US専用機種 開発技術 解析技術	ペダル実務開発 作図/モデル作成 解析 試験	中国専用機種 新顧客開拓 特産品開拓
フィリピンR&D フル活用	実務作業はフィリピンへ移管 創造的開発へ重心移動		24時間体制で 開発委託業務	地域仕様に合った 特性開発
要員数	131名	41名	15名	1名

Global Network / Domestic Network



国内拠点

- ★本社・久喜事業所
- 亀山事業所
- 労賃テクニカルセンター

国内グループ会社

- フクダエンジニアリング株式会社
- 株式会社九州エフテック
- 株式会社リテラ
- 株式会社三共プレス工業
- 株式会社城南製作所

海外グループ会社

- F&P Mfg., Inc.
- F&P America Mfg., Inc.
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc.
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc.
- F.tech R&D North America Inc.
- FEG de Queretaro, S.A. de C.V.
- F.tech Philippines Mfg., Inc.
- F.tech R&D Philippines Inc.
- F.tech Mfg., (Thailand) Ltd.
- 偉福科技工業(中山)有限公司
- 偉福科技工業(武漢)有限公司
- 福田模具技術(煙台)有限公司
- 煙台福研商貿有限公司
- Johnan America, Inc.
- Johnan de Mexico, S.A. de C.V.
- Johnan UK Ltd.
- Johnan F.tech (Thailand) Ltd.
- Progressive Tools & Components (P) Ltd.

営業の概況

● 日本

主要得意先の生産増加により売上が増加し、売上高は45,537百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は1,213百万円（前年同期は営業損失109百万円）となりました。

● 北米

Honda Manufacturing Of Alabama,LLCの新型オデッセイの好調な販売及びGeneral Motors Groupの販売増により、売上高は63,660百万円（前年同期比15.8%）、営業利益は3,806百万円（前年同期比90.7%増）となりました。

● アジア

中国をはじめ各国市場が好調に推移した事により、売上高は28,508百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は2,898百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

■ 次期の見通し

3月11日に発生した東日本大震災は国内自動車産業のみならず世界経済へも様々な影響を与えており、その影響が長期化する可能性を否定できません。現状主要得意先の生産は国内、海外共に減産状態であり、今後の生産見通しも不透明なため、平成24年3月期の連結業績を合理的に算定することが困難な状況にあり、現時点においては業績予想を見極められない状態であります。今後、得意先の生産動向が明らかになり、当社として合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示することといたします。



連結財務諸表

■連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
資産の部		
流動資産	33,635	32,768
現金及び預金	6,320	4,962
受取手形及び売掛金	15,777	17,612
商品及び製品	2,380	1,935
仕掛品	2,636	2,440
原材料及び貯蔵品	4,237	4,299
繰延税金資産	187	172
その他	2,095	1,411
貸倒引当金	△0	△66
固定資産	46,585	51,268
有形固定資産	42,069	46,412
建物及び構築物	16,079	17,507
機械装置及び運搬具	17,000	20,478
金型治工具	525	469
土地	5,642	5,549
その他	2,821	2,407
無形固定資産	890	965
投資その他の資産	3,624	3,890
投資有価証券	2,462	2,245
長期貸付金	275	261
繰延税金資産	392	409
その他	493	973
資産合計	80,220	84,037

	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
負債の部		
流動負債	38,292	38,607
支払手形及び買掛金	13,383	13,504
短期借入金	8,533	9,118
1年以内償還予定社債	2,447	4,004
1年以内返済予定長期借入金	6,529	6,722
未払法人税等	552	674
未払金	2,313	2,000
その他	4,533	2,582
固定負債	18,009	23,273
社債	—	2,447
長期借入金	14,909	18,093
繰延税金負債	1,314	810
退職給付引当金	991	1,135
役員退職慰労引当金	188	207
その他	605	579
負債合計	56,301	61,880

総資産及び自己資本比率



	当期	前期
純資産の部		
株主資本	18,426	15,723
資本金	2,677	2,677
資本剰余金	3,115	3,115
利益剰余金	12,655	9,951
自己株式	△21	△20
その他の包括利益累計額	△4,073	△2,612
少数株主持分	9,565	9,045
純資産合計	23,918	22,156
負債・純資産合計	80,220	84,037

Financial Statements 連結財務諸表

■連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

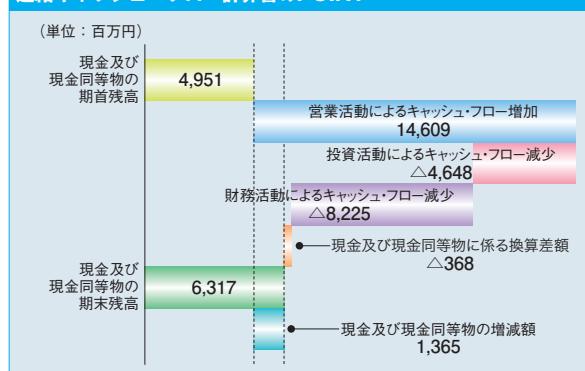
	当期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	前期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	137,706	122,129
売上原価	118,713	107,401
売上総利益	18,993	14,727
販売費及び一般管理費	11,160	9,362
営業利益	7,832	5,365
営業外収益	558	579
営業外費用	1,029	1,093
経常利益	7,362	4,851
特別利益	135	218
特別損失	1,405	412
税金等調整前当期純利益	6,092	4,657
法人税、住民税及び事業税	1,190	1,105
法人税等還付税額	△434	—
法人税等調整額	645	70
少数株主損益調整前当期純利益	4,692	—
少数株主利益	1,641	1,023
当期純利益	3,050	2,457

■連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	当期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	前期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,609	9,111
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,648	△3,850
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,225	△4,675
現金及び現金同等物に係る換算差額	△368	152
現金及び現金同等物の増減額	1,365	737
現金及び現金同等物の期首残高	4,951	4,213
現金及び現金同等物の期末残高	6,317	4,951

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT



■連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当期 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他の有価証券 評価差額金	為替換算調整 勘定	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日 残高	2,677	3,115	9,951	△20	15,723	282	△2,895	△2,612	9,045	22,156
存外子会社の会計処理変更に伴う増減			—		—					
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△346		△346					△346
当期純利益			3,050		3,050					3,050
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額 (純額)						△33	△1,427	△1,461	520	△940
連結会計年度中の変動額合計			2,703	△0	2,703	△33	△1,427	△1,461	520	1,762
平成23年3月31日 残高	2,677	3,115	12,655	△21	18,426	249	△4,322	△4,073	9,565	23,918

会社概要 (平成23年3月31日現在)

商号 株式会社エフテック
 本社 〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和19番地
 創業年月 昭和22年7月
 資本金 2,677百万円
 決算期 3月31日 (年1回)
 連結従業員 5,594名

役員 (平成23年6月23日現在)

代表取締役会長	福田 秋秀	上席執行役員	若林 博美 (亀山事業所長)
代表取締役社長	木村 嗣夫	上席執行役員	外山 守 (経営企画室長)
代表取締役副社長	晝間 勉	上席執行役員	長谷川 誠 (品質保証本部長)
取締役兼専務執行役員	梅津 啓二 (生産本部長)	執行役員	中渡 邦彦 (偉福科技工業(中山)有限公司 総経理)
取締役兼専務執行役員	福田 祐一 (管理本部長)	執行役員	鯨岡 繁 (購買本部長)
取締役兼専務執行役員	佐野 秀夫 (エンジニアリング本部長)	執行役員	瀧本 敬士 (F&PアメリカMFG 副社長)
取締役兼常務執行役員	豊田 正雄 (営業本部長)	執行役員	黒澤 貞章 (管理本部長経理担当)
取締役兼常務執行役員	豊島 健文 (開発本部長)	執行役員	川戸 敬康 (F-TECH MFGタイランド 社長)
常務執行役員	藤瀧 一 (F&PアメリカMFG 社長)	執行役員	竹内 満 (エンジニアリング本部副本部長)
上席執行役員	安藤 研一 (F&P MFG 社長)	常勤監査役	村岡 芳彦
上席執行役員	飛田 茂晴 (管理本部副本部長)	常勤監査役	山野 正史
上席執行役員	杉浦 民夫 (生産本部副本部長)	監査役	依田 英男
		監査役	遠西 昭

※監査役 依田英男、遠西昭は社外監査役です。

株式の状況 (平成23年3月31日現在)

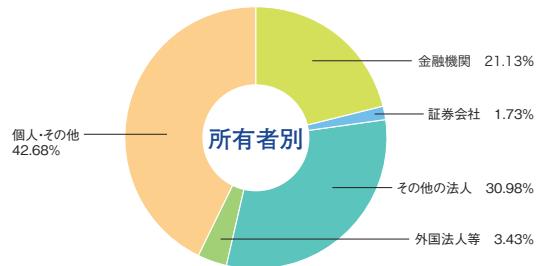
発行可能株式総数…………… 36,360,000株
 発行済株式の総数…………… 12,390,000株
 株主数…………… 4,922名

大株主の状況

大株主 (上位10名)	持株数 (千株)	出資比率 (%)
本田技研工業株式会社	2,551	20.60
福田秋秀	1,691	13.65
株式会社埼玉りそな銀行	493	3.98
福田順子	360	2.91
住友商事株式会社	347	2.80
有限会社フクダ興産	339	2.74
福田治六	287	2.32
エフテック社員持株会	273	2.21
株式会社三菱東京UFJ銀行	272	2.20
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	241	1.95

※出資比率は自己株式 (3,963株) を控除して計算しております。

株式分布状況



※監査役 依田英男、遠西昭は社外監査役です。

ホームページのご案内

IR情報開示に関する専用ページから、株主の皆様へ向けて
適時情報開示を行っています。ぜひ一度ご覧ください。



当社HPでは、製品・技術情報、品質への取り組み、最新ニュース
等を掲載しています。インターネットを通して発信する、エフテック
の魅力の一端をどうぞご覧ください。

住所変更・配当金のお受け取り方法の 指定・変更、単元未満株式の買取について

- 株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。
- 証券会社等に口座をお持ちでないため特別口座が開設されることとなった株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

IR掲載コンテンツ

- 社長メッセージ
- 株主総会招集通知
- 業績データ
- 決算短信
- 事業報告
- 株価情報
- 有価証券報告書
- 電子公告
- 株式に関するご案内
- 決算公告
- IRカレンダー

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、右記の方法にて
アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900(平日 10:00～17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 7212

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます